NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞に込められた思いを読み解く

2．学校名

大阪府立香里丘高等学校

3．実践者名（代表者名）

吉田　裕紀

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

政治経済

6．単元（本時の学習課題）名

自らの考えをまとめる手段としての新聞活用

7．目標(狙い)

情報源としての新聞をもとに、新聞に込められた考え思いを読み取れるようにし、かつ、そのことを元に自分自身の考えをまとめられるようにする。

8．評価の視点

新聞に込められた考えが読み取れたかどうか。また、読み取ったことをベースに自分の考えをまとめたかどうかを評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①その日の新聞を読む:新聞選びの基本は、その日に生徒に是非、読んでもらいたい記事を選んで提示した。最低でも2紙、時間があれば3紙を読み、2記事を即断して提示した。その即断の基準は、昨年は『命』を意識した記事をできる限り選んだが、今年は『人』を選ぶテーマにした。様々な人の姿、様々な人の生き方などを取り上げた記事をできる限り選んで提示した。
②Happy Newsを見つけ出す:教室に新聞を持ち込み、与えられた新聞からHappy Newsを見つけ出す作業に取り組ませた。長期間にわたって記事を見つけるのではなく、与えられた記事から見つけるためには、記事に込められた思いや考えに気づく必要がある。また、日頃から、新聞に親しんでおく必要がある。3年間の取り組みの集大成として、生徒に時間中に記事を読み込むことを求めた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

Happy Newsを選び出す作業においては、一人一人が、新聞を広げ、記事に込められた意味を考え、自分なりのHappy Newsを選ぼうとする生徒がみられた。

12．成果と課題

授業の最初の新聞も、3年目になると、生徒にとっては当たり前の時間となった。授業に新聞があること自体を、生徒が当たり前と感じてもらえるようになったのは、継続的な取り組みの成果だと考える。高校3年生にとっては、今までとは違う社会に出て行く時期である。単に進路を考えると言った視点ではなく、社会の一員として、様々な人々との関わりを持ち、自らの考えや生き方を確立していく必要があると考える。そのためにも、多くの人々の姿を新聞を通して、生徒一人一人の生きる糧になればよいとの思いを持った。テーマは、変えたが目指したものは、変えずに、記事を表面的に捉えるのではなく、少しでも記事に込められた思いをく